

(公財) コープともしびボランティア振興財団

2016 年度事業計画

<基本方針>

協同の基盤づくりを通し、中間支援組織として社会的課題解決への役割を果たします。

<課題>

1. 地域や暮らしにかかわる課題を把握し、その解決を目指す活動・人・ネットワークを支援します。
2. 地域に当財団の活動への共感者、支援者をさらに広げます。
3. コープこうべとの連携により、広報、人材育成、資金調達を強化し、地域課題への対応力を高めます。

I. 地域や暮らしにかかわる課題を把握し、その解決を目指す活動・人・ネットワークを支援します。

1. ボランティア活動助成

2016 年度助成に向けて、2015 年の 11 月～12 月に説明会を 8 エリアで実施しました。淡路島では、設立 20 年間で初めての開催となりました。

(1) 募集および申請状況

募集は 2015 年 11 月 1 日から、従来からの当財団ホームページ、コープこうべホームページ、コープこうべ機関紙「きょうどう」での広報に加え、社協や行政その他の中間支援組織経由でのチラシ配布等を行い、下記のと通りの申請状況でした。

助成金説明会では、設立 20 周年の記念 DVD も使って説明し、当財団の成り立ちや、目的、助成の特徴を理解いただいた上での申請をお願いしました。

	申 請 (グループ数 / 金額(円))	助 成 (案) (グループ数 / 金額(円))
福祉等	152 13,867,000	130 7,950,000
環境	36 3,183,000	36 2,047,000
合計	188 17,050,000,,	166 9,997,000

(2) 審査について

審査基準

ボランティア活動助成の募集要項に、下記の審査基準を記載し、公開しています。

◇活動の公益性：課題把握、公益性

- ◇社会貢献度：活動の必要性、課題と活動との一致、地域密着度
- ◇活動の継続や発展性：運営能力、チャレンジ性、広報力
- ◇収支の妥当性：助成金使途の妥当性、適切な受益者負担、会計能力
- ◇循環型のしくみへの理解

(3) 今年度の特徴

申請グループ総数、また新規申請グループ数ともに、今年度はさらに増加しています。初めて申請説明会を開催した淡路からも4件の申請がありました。

	申請件数			
	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
福祉	141	144	155	152
環境	31	30	28	36
合計	172	174	183	188

	上記のうち、新規申請件数			
	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
福祉	22	21	33	30
環境	7	4	3	9
合計	29	25	36	39

(4) 2016年度助成(案)

分野別助成一覧

	分野	対象者	件数	助成額(円)	助成給付率(%)
①	福祉	高齢者	42	1,835,000	18.4
		障がい者	17	1,171,000	11.7
		地域住民	7	315,000	3.2
		在日外国人	1	108,000	1.1
		施設・病院	3	55,000	0.6
		合計	70	3,484,000	34.9
②	まちづくり		7	429,000	4.3
③	文化・芸術		5	585,000	5.9
④	国際協力		4	312,000	3.1
⑤	男女共同参画		1	195,000	2.0
⑥	子ども育成		42	2,799,000	28.0
⑦	環境の保全		36	2,047,000	20.5
⑧	その他 (性暴力被害者支援)		1	146,000	1.5
合計			166	9,997,000	100.0

(5) 助成決定後のサポート

①助成金の交付

2015年度から安全性を考慮し銀行口座（代表者など）への振込に変更しました。
特に問題がなかったことから、2016年度も継続します。

②交流会の開催

5月24日に全助成グループが集う「市民活動交流会 2016」を開催します。

③ホームページの助成グループ情報強化

2016年度は同資料を申請時の必須資料として位置付けたことにより、100%回収。
4月からすぐに「今年度の助成グループ」としてホームページに掲載予定です。

④分野別交流会の開催

希望により分野別交流・研修会を開催し、ステップアップの機会とします

(6) 助成グループのステップアップのための機会の提供

①助言者による「アドバイザー派遣制度」導入

今年度から、希望する助成グループに対して、メンター（助言者）によるアドバイスを試験的に実施します（1～3グループ程度）。

メンターは当財団の運営委員を中心にお願ひし、地域課題の把握方法、活動の新たな展開の視点、より社会的インパクトのある活動にするにはどうすればよいかなどについて、個別にアドバイスを受ける機会を提供します。

②「申請書の書き方」セミナーの継続実施

2015年度は申請説明会の1つの中で、「申請書の書き方」のセミナーも同時開催し、好評でした。今年度も、このセミナーをさらにステップアップして継続予定。

(7) 2017年度の助成金説明会の開催にむけて

①初となる丹波篠山での開催も含め、9エリアで行う予定です。

日時	開催エリア	会場（予定）
10/19（水）	丹波篠山	篠山市民センター
11/7（月）	神戸市北区	コープこうべ コープカルチャー神戸北
11/8（火）	明石市	明石市生涯学習センター 学習室2
11/11（金）	神戸市中央区 ※近畿ろうきんと 合同開催	兵庫県民会館 11階 パルテホール
11/15（火）	宝塚市	宝塚商工会議所 1・2
11/17（木）	洲本市	洲本市文化体育館 2C

11/18 (金)	西宮市	西宮市民会館 301 会議室
11/26 (土)	神戸市東灘区	住吉事務所 7F 大会議室
11/30 (水)	姫路市	第 6 地区活動本部 会議室

- ① 2015 年度の助成金説明会の実績を踏まえ、今年度も新規・既存合同で開催します。
- ② 県内中間支援組織とのコラボレーションを検討し、新たなグループへの情報提供と開拓を図ります。

2. 調査研究助成

2016 年度は新たな枠組みで、調査研究助成の募集を再開します。

調査研究助成については、これまで応募のあった大学に広がりがないことや、「ボランティアコーディネーターの育成」という目標設定を見直す必要があるのではないかとのご意見を受け、2015 年度は募集を中止していました。2015 年度の運営委員会で検討し、「活動現場をすでに持っている社会人が、学びを深めるための助成」として、広報活動も強化しながら 2016 年度に募集を再開することになりました。

3. ひと育て、学びの場の充実

(1) 活動交流の促進、研修、講座

2015 年度から、財団が主催・運営までを行うのではなく、下記の 4 つの柱を基にした講座を開催する団体を後援・協力していく方法に変更しました。2016 年度もこの方法で進めます。

- ① ボランティア活動の裾野を広げる講座
(傾聴講座、認知症予防講座、コミュニケーションマージャン講座など)
- ② グループマネージメントを強化する講座
(グループ活動が楽しくなる講座など)
- ③ ボランティアグループの技術向上と継承をサポートする講座
(ボランティア活動継承講座、おもちゃ修理講座など)
- ④ 社会的課題を考える講座
(セルフヘルプグループセミナー、子どもの虐待予防を考える講座など)

ただし、社会的課題解決など、新しいテーマのものについては、当財団が随時主催し、先駆的に開催していきます。

(2) 調査研究助成対象者の公開報告会を開催します。

6 月 24 日 (金) に 2014 年度助成対象者の現在の活動内容や問題意識を聞き、参加者との交流を深める公開報告会を開催し、この助成が培ってきた成果を地域に還元します。

II. 地域に当財団の活動への共感者、支援者をさらに広げます。

1. 新たな課題や活動を掘り起こすとともに、当財団への関心や理解者を増やします。

(1) 「1 DAY 視察交流ツアー」の継続実施

当財団の助成先を中心に、ボランティアや地域活動の現場をバスで巡るツアーを2016年度も2回開催します。2015年度は3回開催しましたが、いずれも参加希望者が定員を大きく上回るなど好評で、継続への希望が多かったものです。

地域での活動の現場を視察しながら、社会的課題を考えるとともに、ツアー参加者への財団の活動理解を促進します。

(2) 「新たな地域のつどいの場づくり」立ち上げ助成の実施

20周年記念事業の1つとして、2015年度に初めて実施しました。ニーズもあり、財団としても地域のつどい場づくりを進めていきたいことから、2016年度も、立ち上げ助成を実施することとします。今年度はセミナー&説明会を9月29日に実施予定。審査・決定は、運営委員会で行います。

●年間予算 60万円 上限20万円

(3) 「社会的課題」の把握につとめ、新たな課題について学習会を開催

財団の助成グループが申請書に記入している「地域の課題」について、財団スタッフで書き出し、分析を行うことで社会的課題の把握を行います。

最近問題になっている、「子どもの貧困」などについても、まずは問題の本質や現状について財団内での理解を深め、夏以降に学習会を企画・実施します。

Ⅲ. コープこうべとの連携により、広報、人材育成、資金調達を強化し、地域課題への対応力を高めます。

1. 広報強化の継続・発展

(1) コープこうべ関係部署との連携

(2) 職員 SNS の活用

2. 人材育成の連携強化

(1) 当財団の活動・研修へのコープこうべ職員の参加促進

(2) 当財団の助成グループへのコープこうべ職員の活動参加

(3) コープ委員会や、レインボースクールへの当財団についての学習会提案

3. 資金調達の連携強化

(1) 当財団の「サポーター」の登録を検討し、進めます。

財団の寄付・募金など資金調達を応援する人（サポーター）の活動について検討し、試験的な活動をスタートします。財団について、一定の研修を受けて理解・共感した人が、募金や賛助会員へのお誘いなどのサポート活動を、自分の職場や地域の組合員に対して行ってもらいます。

(2) 2016年度 賛助会費・寄付・募金の目標

2015年度は、目標を達成しましたが、取り組みを緩めると、これまでのように下降していくため、新たな募金方法の検討を行います。また、2016年度は20周年冊子をもとに、地元企業への賛助会員の呼びかけなど、法人会員の獲得にも力を入れます。

(3) 新しい社会的課題に対応する資金調達の検討

新しい社会課題に対応する資金調達については、2015年度はコープこうべの関連部署との相談や、外部のファンドレイジング事例などを研究しました。2016年度も継続して検討をすすめます。

(4) 夕食サポート事業との連携

高齢者世帯を中心に毎日夕食のお弁当を届けるコープこうべの夕食サポート事業「まいくる」では、兵庫県内での利用1食あたり0.5円を当財団に寄付いただいています。今年度も、夕食サポート事業「まいくる」の利用者や、配達に携わるサポーターに、事業が地域ボランティアへの貢献にも役立っていることをお知らせし、生協らしい取り組みとして広げていくための広報を担当部署とともに実施します。

4. 基本財産運用

財産運用規則にのっとり、コープこうべ関係部署にも相談しながらすすめます。